

京丹波町・美山町の農家及び自社農園の京野菜・美山のたまごスイーツの販路拡大と増産による新規障害者採用の拡大

株式会社 京のちから

代表取締役

石井 雄一郎さん



石井 雄一郎さん

平成25年度 採択事業

農業を軸とした障害者就労支援

株式会社京のちからは、平成22(2010)年に設立された、福祉と農業を両立する会社で、自社生産した農産物を製菓に加工して販売する6次産業を、障害者就労支援事業として行っています。しかし、京都市中京区の事業所入口には、熱帯魚のイラストとカフェの看板、一歩中に入ると野菜やお菓子と一緒に大きな熱帯魚水槽が並ぶ不思議な空間。「もとは熱帯魚屋さんとカフェを経営していたんですよ」と、代表取締役の石井雄一郎さんから意外なお話。そのお店に、京都市の紹介で自立を目指す障害者の方を一人受け入れたことがきっかけとなり、いつの間にか障害者支援を目的とした会社を設立するまでになったと言います。

株式会社京のちからの事業の特徴は2つあります。1つは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(いわゆる「障害者総合支援法」)」に基づく就労継続支援事業のうち、雇用契約を締結して就労や生産活動の機会の提供、その他就労に必要な知識や能力の向上のための訓練などを行う「就労継続支援A型事業」の認可を取得していることです。つまり、通常の事業所で雇用されることが困難な障害者の方々を雇用し、菓子製造や店舗販売の訓練や経験を積むことで通常の事業所に就労できるよう支援しているのです。

もう1つの特徴は、京都府が取り組んでいる「京都モデルファーム運動」(活用が困難な耕作放棄地を地域と企業などが協働して再生し、活用することで、農業や農村の多面的かつ公益的な機能を維持保全していくための活動)の第4号として、京丹波町大倉地区と耕作放棄地の活用協定を結んでいることです。京のちからは、農業用地を後継者問題に直面している地元の方から借り受け、農作業を請け負うことで、お菓子などの原料となる農作物を生産しています。京都府が推進する活用協定を結んでいることは、土地の貸し手となる地元の方々にも安心して受け入れて頂くことができ、良好な関係で農業に貢献できると言います。

このように、福祉事業と農業の2つの柱を強みとし、生産・加工・販売を一括管理する6次産業を通じて障害者の自立を支援している事業所は全国でも珍しいと言えます。

京丹波町で生産、京都市内で加工販売

平成25(2013)年4月から、協定を結んだ京丹波町大倉地区で本格的に就農事業をスタートさせた石井さん。はじめは5反だった農地面積も、応援ファンド申

福祉向上・子育て支援

請時の目標だった10反はすぐに達成、90歳のおじいちゃんから譲り受ける田んぼをはじめ、平成28(2016)年には畑、麦、果物などもあわせて約70反に増える予定です。活動を始めた途端、地元からこちらの畑もぜひ、とお声掛けがあり、一気に広がっていった農地面積。少子高齢化は今やどの農村にも深刻な問題ですが、若い就農者が増えることは地元にも大変喜んでいただいているそうです。

京丹波町で生産された農産物は、京丹波町で運営する就労継続支援A型事業所「知知のちから」でも販売していますが、ほとんどが本社に運ばれ製菓原料になります。原料は小麦粉以外すべて京都産。将来的には小麦粉を米粉にし、オール京都かつオール無農薬の有機栽培にしたいと石井さん。卸販売の主力商品である京の「地のもん」スイーツをはじめ、京都産の付加価値をつけた商品開発に力を入れています。



京丹波町の畑「知知のちから」



京の「地のもん」スイーツの京野菜「つきき」

得意分野を活かして自立を

株式会社京のちからは、社員50名のうち36名が障害者手帳を所有しており、14名がその支援を行うスタッフです。各営業所には社会福祉士などの有資格者と営業責任者を1名ずつ、指導員を4名ずつ配置し、障害者を含め、全ての社員の最低賃金を確保しています。社会福祉施設としての利用者は、身体障害、精神障害など障害の種別を問わず、また、生活保護費受給者、刑務所出所者など就労支援の必要な方を全て受け入れているため、様々な方が分業体制で仕事をしています。そして、経験を積んで自立して仕事ができるようになり、一般企業に送り出すことが最終目標。そのために、一人ひとりの得意なことを見つけて仕事をお願いし、それがひとつずつできるようになることで自信を持ってもらいたいと言います。計算が得意な方には事務を、計量が得意な方には原料の測定を、そのうち、製菓ラインでは一人で全ての工程をこなせるようになった方もいるそうです。農作業も、地元の方に教えてもらい、自分たちで作れるようになっていったそう。実際に、自分たちが作った野菜が

きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業 平成25年度 事例集

手に取られる様子を見たり、お菓子が京都のお土産品として店頭と並んでいる様子を見たり、生産者側として消費者が見える業種は直接自信につながり、自立への励みになるそうです。

社会福祉事業者として直面する課題もあります。国の方針では、最低賃金で就労するより生活保護費を受給した方が受け取る金額が高い場合があり、逆転現象を解消するために最低賃金を上げる傾向にあるそうですが、社会福祉事業者にとっては給与支出が増えるのみで非常に厳しい状況だと言います。また、設立直後に東日本大震災が発生し、それまで石井さんが経営していた熱帯魚屋としても大打撃を受け、今でもその影響が残っていると言います。それでも、自立を目指して励んでいる社員のために事業を継続すべく、京都市のアニメ事業とコラボした商品を開発し、自社販売するなど、新規販路開拓も積極的に行っています。「一般企業なら数人のプロが行えばできることを、全工程を一人ひとりの得意分野を活かして手作業で担うからこそ価値がある、さらにそれをオール京都産で実現したい」と、石井さん。事業としては売上を伸ばすための販路拡大と、それを賄う生産能力の確保を目標にしなが、経験をもとに社会福祉政策にも貢献していきたい、と、大学や行政との関わりも始めたところだそう。石井さんの経験にもとづいた説得力のある言葉が、社会福祉業界の仕組みそのものの改善へ活かされていくことを願っています。



得意分野を仕事にして自信をつける

事業概要

株式会社 京のちから

http://kyonochikara.jp

代表：代表取締役 石井雄一郎

業種：障害者就労支援事業に基づく菓子製造業・農業・飲食店営業

創業：平成22(2010)年 設立：平成22(2010)年

住所：〒604-8336 京都市中京区大宮通り三条下る三条大宮町258

TEL：075-468-1130 FAX：075-803-0901